

99年度 黒字財政は見かけ上 会員の「持ち出し」に頼る

予算の解説

映画塾が市民団体になって二年目となる二〇〇〇年度が一月、スタートした。新年度予算は手探りの一年目を踏まえ、わずかながら積極予算に踏み込んだ。一九九九年年度決算の報告と二〇〇〇年度予算の解説、問題点を解説する。なお、以下の文章は個人的な意見であることをあらかじめお断りしておく。

(副代表・星龍雄)

決算の概略

九九年度の決算(表と表の合算)を見ると、収入は八十三万五千

表 決算書1 (1998年11月~99年10月)

項目	決算額	内訳
繰越金	109,410	3期映画塾 105,190 駐車場、家賃組合 4,220
会費	476,000	
ビデオ売上金	31,800	
機材印刷機使用料	52,480	
映画塾冊子	3,000	
その他	59,858	貯金利子 223 貯金箱 3,000 懇親会残金 38,135 子供の宇宙から 10,000 駐車場使用料 8,500
合計	732,548	

支出

項目	決算額	内訳
家賃	130,000	1998年10月~1999年10月(毎月1万円)
光熱費	120,000	1998年11月~1999年10月(毎月1万円)
通信費	38,460	映画塾新聞発送 33,890(2月148通、4月153通、10月92通) フィルム、ビデオ送料 3,070 年賀葉書 1,500
電話	83,661	98年10月 12,473 11月 14,385 12月 9,211 99年1月 4,693 2月 5,586 3月 5,292 4月 5,281+2,079 5月 7,276+2,079 6月 7,287+808 7月~9月 5,000×3
消耗品	32,792	リール 10,552、2期作品磁気コーティング 10,000、映写ベルト 4,000、ランプ 7,237、フィルムクリーナー 1,008
印刷機	76,371	A4クリーム 4,242、マスター 16,800×2
FAX、コピー	14,099	FAX用紙 577、インク 3,922+1,200、トナー 4,200×2
3期冊子	14,500	
ビデオ編集費	11,500	
びあ出品料	12,000	
維持費	20,236	灯油 9,979、ゴミ袋・トイレトーパー 4,196 文房具 388、コピー用紙 1,274、領収書 157、スペアキー 525、祝酒 1,134 Z I P 1,764、エアダスター 819
振込手数料	4,480	
合計	558,099	

表 決算書2 (1999年11月~12月)

項目	決算額	内訳
家賃	20,000	11月分、12月分
光熱費	20,000	11月分、12月分
通信費	22,200	4期冊子 6,270(33通) 映画塾新聞発送 10,800(135通) フィルム、ビデオ送料 2,180 年賀葉書 2,500
電話	10,000	11月分、12月分
びあ出品料	12,000	2,000×6本
ビデオ編集費	13,000	
維持費	26,700	灯油 2,495、封筒 1,403 封筒印刷 8400、映画塾新聞印刷 5,990、ゴム印 4,725、蛍光灯 787、書籍代金 2,900
合計	123,900	

支出

項目	決算額	内訳
繰越金	174,449	
会費	35,000	
ビデオ売上金	12,500	
機材使用料	3,000	
印刷機使用料	400	
映画塾4期残金	45,550	
その他	6,930	貯金箱 2,000 駐車場使用料 4,930
合計	277,829	

差引153,929円を2000年度に繰越

決算が2表なのは、当初年度末が10月末だったため。その後の定例会で、12月末に変更になった

九百二十八円、支出は六十八万二千九百九十九円で、差し引き十五万三千九百二十九円が二〇〇〇年度へ繰り越しになっている。この数字だけ見てみると、映画塾はきわめて健全な黒字運営をしているように見えるが、実際は、支出のかなりの部分が会員の「持ち出し」に頼ったと言った方が正しい。表と第4期映画塾決算や会員の持ち出しで運営されたのが実状だ。(次ページ先頭へ続く)

事務所の家賃については、九八年十月から九九年十二月まで十五カ月間の

表 2000年度予算(2000年1月~12月)

収入

項目	予算額	内訳
会費	476,000	99年度と同じ
ビデオ売上金	30,000	(同)
機材使用料	50,000	
リソグラフ使用料	30,000	1円×3万枚(新)
上映会残金	60,000	(新)
インディーズ残金	30,000	(新)
フリーマーケット売上金	48,000	(新)
繰越金	153,929	4期45,550円ほか
その他	10,071	
合計	888,000	

支出

項目	予算額	内訳
家賃	180,000	15,000×12カ月(増)
光熱費	120,000	10,000円×12カ月(同)
通信費	130,000	葉書(上映会)50円×7カ月×150人=52,500、封筒(通信・上映会)90円×4カ月×200人=72,000円、宅配便 5,500円(増)
電話代	96,000	8,000×12カ月(増)
ホームページ	53,000	入会金 5,000円+4,000円×12カ月(新)
維持費	20,000	灯油、トイレトペーパー、文房具など
駐車場代	36,000	駐車場補助代 3,000×12カ月(新)
消耗品	30,000	リール、ランプ、クリーナー、ベルトほか
書籍代	8,000	
リソグラフ	80,000	(増)
ビデオ編集費	15,000	
ぴあ出品料	12,000	ぴあ出品料(同)
振込手数料	5,000	
負担金	13,000	新潟県アマチュア映像連盟会費(新)
事業費	90,000	FM制作費30,000(新)、上映会10,000×6回(新)
合計	888,000	

注 (新)は新規、(増)は前年度から増額、(同)は同額

新年度 事業盛り込み3割増 支出

支出は十五万円。つまり毎月一万円を負担しただけだ。実際の家賃は月七万円。残りは「同居」している会員の笹崎隆氏の個人事務所とinoutが負担している。事務所維持費一つとっても会員個人の好意に頼っているのが実状だ。

か修理費も予算からは捻出できないため、先送りになっているものが多い。

予算の内訳

新年度予算の支出(表参照)は、前年度決算比で三〇・一%増加した。新規支出としては「ホームページ」、「FM制作費」、「上映会」、「新潟県アマチュア映像連盟」の四つが挙げられる。ホームページは九八年四月開設以来、約二年を経てデータ量が膨大になってきていることなどから、より大容量の契約を結ぶ必要が出てきたためだ。

また、県アマチュア映像連盟は、県内の映像団体のしにせのネットワーク。構成員は壮・高齢者が多いが、映画塾が活動の柱に掲げる「交流」には世代間の交流も含まれることや、大先輩の技術を学ぶことも重要だと

考えたからだ。このほか、既存会員への広報活動を活発にするために「通信費」を十三万円(前年度当初予算比八万円増)とし、毎月会員に何らかの案内を送れるようにした。またリソグラフ(事務所にある簡易印刷機)も、この一年間の実情に合わせ八万円(同五万六千円増)にした。

フリーマーで収入穴埋め

問題点
このように、身の丈に合わせた収入穴埋め

さらに概略で述べた、最大の懸念材料は、会費収入の伸び悩みだ。新年度は、前年度と同額の四十七万六千円を見込んでいたが、これは第四期映画塾卒業生らに加わり新規会員数が二百人ほどまで増加したにもかかわらず、既存会員の未納者増加などで収入は相殺されたと見込まれているためだ。前年度は発足初年度ということでも、祝儀的な会費が多かったことも役員らの危機感を募らせている。

県内外の各種団体との交流を活発に進めるには、対外活動を保証する「旅費助成」が必要だが、予算のめどが立たないため見送られた。

新規会員が増えれば増えるほど、NG(映画塾通信)などの郵送費がかさむというジレンマもある。「会費を払わない会員にまでダイレクトメールを送る必要があるのか」という意見も総会では出たが、「金額には関係なく、映画塾に対する思いは同じ」(矢部孝男代表)という原則論から会員の「選別」が見送りになった経緯もある。

このままでは映画塾は維持するだけで精一杯という状況が続きかねない。しかし維持するだけではなんの意味もない。「新潟で映像作品が生まれる環境をつくる」という目的を各会員が理解し、活発な活動のために一円でも多くの会費が集まることを期待する。

シネシネパンパン2000日程

1月29日(土)

五十嵐匠監督特集

~8mm処女作から劇場公開第1作まで~

開演：1回目午後2時(4時45分終了予定)、2回目午後6時15分(午後9時終了予定)、午後5時から6時まで、五十嵐監督の講演あり

場所：新潟市万代市民会館3F視聴覚室
上映協力金：1200円(映画塾会員、シネ・ウインド会員、電話予約、チラシ持参の方は1000円)

上映作品

- 「死期」(79年、8ミリ15分)
- 「幻影肢」(80年、8ミリ45分)長谷川和彦監督の推薦を受けPFF入選
- 「埴輪」(81年、8ミリ20分)
- 「津軽」(1989年、16ミリ75分)室田日出男、川島昭恵主演。盲目の女にいざなわれた男の故郷へのレクイエム

2月27日(日)

寺田裕之特集

開演：午後1時半(午後6時終了予定)

場所：万代市民会館視聴覚室

上映協力金：1000円

上映作品

- 「人間の眠っている間に」(82年、4分30秒)飼猫が演じる作者自身の夏休みの話
- 「おばあちゃんの裁縫」(83年、3分)おばあちゃんの日常の風景の日記映画
- 「THE INFINITE」(85年、10分23秒)スチール写真のコマ撮り実習映画
- 「死神特急」(89年、12分)人殺しの若者と生命のない物との地獄の闘い。91年ゆうばり国際冒険・ファンタスティック映画祭オシアター部門グランプリ
- 「終」(80年、53分)空き巣狙いが趣味になった高校生の話。利重剛主演。日本映像フェスティバル、東京都知事賞受賞全作品テレシネによるビデオ上映です。作品解説あり。寺田監督来訪予定

予約・問い合わせ にいがた映画塾 025-248-9088

シネバン2000スタート!

第1弾は五十嵐匠監督特集



「津軽」の一場面

映画塾の定期上映会「シネシネパンパン」。上映形態をあらため「シネシネパンパン2000」として再出発することになりました。第一弾は浅野忠信主演「地雷を踏んだらサヨウナラ」の新潟公開を記念して、五十嵐匠監督特集を一月二十九日開催します。

シネバンは「毎月第二(休み)。新潟大横にある金曜日新潟インディーの日!」をキャッチフレーズに九八年十二月から九九年十二月まで全十回開催(八、十一月は

鳥裕之さんの指摘の通り多くの反省点もあるため、佐藤広一特集を最後に、これまでの形態のシネバンはいったん幕を閉じることにしました。

その後、有志で上映会の存続について話し合いをしましたが、定期上映会は必要だという声や、

これまでの会員制作の作品上映にとどまらず、広く魅力的な作品も紹介するべきだという声を受けて、暫定的に二〇〇〇年バージョンをスタートすることにしました。

上映会の今後の方向はまだ固まっていません。今後モスタッフ会議を開いていきますので、興味のある方はぜひ話し合いに参加してください。

政人事務局長の発案。「S.A.W.A.D.A」(九六年キネマ旬報文化映画第一位)など優れた作品を生みだした五十嵐監督の原点ともいえる学生時代の八ミリ処女作品から劇場公開の第一作まで、軌跡をたどります。当日は五十嵐監督も来場し、講演を行う予定です。

なお、「地雷」は二月四日までシネ・ウインドで上映中。

「すこいの原型」「死期」と「津軽」 上映会に寄せて

五十嵐匠の八ミリを初めて見たのは、昭和五十四年の九月だと思う。夏休みにサークルの仲間を一人連れて帰省し、一本撮って帰ってきた。江戸田の彼の宿だと思っ

見たことのない彼の故郷津軽が、美しく、暖かく、輝いていた。「すこいの撮ったな、匠」と言

郷の冬が世間で言われているように暗く長いという印象を抱いたことは一度もない。陽光に反射するまばゆいほどの雪の白、視界に広がる華やかな雪原、白い世界が人々の心をおたやかに静めてくれる」という映像詩だと手紙に書いてあった。果たして「津軽」は暗く、重く、沈んでいた。それなのに、「死期」の

今回、一年を通して一回のペースで上映会をしてきました(八月、十一月を除く)。第三回からアンケートをとりはじめましたが、映画塾関係者以外のお客様から辛辣な感想を頂くことがありました。それは外部の人たちには開かれた場でない、というものでした。また、身内たちだけで楽しんでいる、というものもありました。

会をつくらないでほしい。この上映会は、関係者たちのパーティーではなく、関係者とお客様の交流する場のはずなのですから。

以上、関係者の人たちの意識レベルが低いような書き方をしてみました。主催側の私の宣伝不足、上映会場の演出不足などが、七割を占めていると自覚しています。そして、一年の経験から上映会は四人から六人のスタッフで構成されていたほうがいいと感じました。

豊島 最後に、この定期の自主映画上映会は、失敗がうがいに感じました。

関係者の方々はお客ではないとは言いません。上映会を私たちが一緒に楽しんでもらいたい。けれども、映画塾をこれからも広げていきたいのなら、他のお客様と一緒に楽しんでいるかなければいけないと思っています。無意識に自分たちの村社

ように輝いていた。十年前と同じように「すこいの撮ったな」と、また言った。今度は気持ちよかった。

その後、彼は映画監督と呼ばれるようになった。「すこいの撮れよ」と。ナンミン・ロー

「すこい」の「サワダ」を見たら「すこい」の原形は、「死期」と「津軽」にある。「地雷を踏んだらサヨウナラ」は果たしてどうか。「死期」と「津軽」を見なければ始まらない。(五十嵐政人)

2月27日は寺田裕之特集

新生シネパン第二弾の野上純嗣さんのセレクは、二月二十七日に映像 ショーンです。
 作家・寺田裕之氏の特集 寺田氏は一九六二年東京出身。手塚真、利重監督作品「終」(利重剛主

演)でいきなり日本映像フェス大賞、東京都知事賞を受賞。高校生とは思えない秀逸な演出で一躍自主製作映画の龍児となりました。
 その後大阪芸大に進

学。ハミリ作品をつくり野上さんは、現在の邦画界で絶対活躍してほしい期待高まる映像作家」と本誌を押ししています。
 初作品「終」から「死神特急」まで、五本を上

映します。以降は、三月に三条高校の映像作品特集、四月は映像作家・寺嶋真里特集、五月は原将人特集をお送りする予定です。お楽しみに!

第四期映画塾で講師を務めていただいた大倉宏さんから、スタッフの井上朗子さんへ卒業作品の感想が届きました。全文を掲載します。

拝復

新潟映画塾の作品VTRと記録集「めまい」を御恵送ありがとうございました。

VTRを拝見して、退屈しなかったというか、それそれに表現の原基のようなものが感じられて、面白い一時を過ごさせていただきました。前途半端という印象が残りにみたVTRと比較して、レペルアップを感じますし、作品に届いているものが多いいあと、心強いものを感じました。以下、簡単な感想を記します。

第4期に関する書簡

大倉 宏

「舞い」
 この一篇だけは、退屈でした。オープニングの車の走りのシーンはちょっと期待させる感じがなかっただけに、当初のアイデアのバターンを抜け出す映像がなくて、これで作品以下です。

「蒿とその仲間たち」
 唯一のドキュメンタリーですが、坦々とした撮り方は悪くないなあと思いました。作業所に流れる日々の時間の手触りのよ

「BIRTHDAY」
 とても印象に残る映像で、十分という時間と映像の質がよく響きあっていて面白かった。出演のふたりはふたご、でしょ

「ひとやすみ」
 なんだか面白かったです。カメラワークのよさ

うなものが出てますね。インタビュアの雰囲気もいいですね。ロケーション、映像(構図)、演技などに、美しさや濃い味を感じました。むしろ長編映画の感度ですね。逆にいうと十分の作品としては、中途半端という印象が残りました。構図や編集に力

成功ですね。編集のセンスもいいなと思います。音がないのも、怖さという点では、もうちょっと目玉切り込んでくるような感じが鋭さというかな。混沌というか、そういうものがあつてよいのでは。それがいい分、印象はいいけれど、軽い。「月の下は」

物語の設定は練れてないとは言えないのに、やっぱり一番印象に残りました。出演者の二人の、人間から、映画が逆に引き出されて、最後の海での映像的にもパワフルな争いのシーンにまで突っ走っていった映画という感じがします。五十嵐さんの中年男ぶりも上手くないけれど悪くない。ラストに彼が出て来た場面は秀逸で、映画が自分の足で立ち上がるうとして

以上、御礼まで。お聞き及びとおもいますが、来年は村井さん、小船井さん、小川さん、上田さんたちと、新潟絵屋」という企画展空間を

「Cinemaで愛して」ゲスト
 第1回(12・5)矢部孝男(映画塾代表)
 第2回(12・12)星龍雄(同副代表)
 第3回(12・19)シャノンこと渡邊美佳(1期)
 第4回(12・26)年末特集 星龍雄、駒形千夏(3期)
 第5回(1・2)新年特集 矢部孝男、山川智子(4期)
 第6回(1・9)白木栄美子(3期)
 第7回(1・16)柄澤優子(3期)
 第8回(1・23)長谷川幸枝(2期)
 今後のゲスト(予定)
 第9回(1・30)土田雅之(新潟市青年ネットワーク)
 第10回(2・6)笹崎隆(映画塾副代表)
 第11回(2・13)五十嵐政人(同事務局長)
 第12回(2・20)ナシモト・タオ(同講師・映像作家)
 第13回(2・27)吉田健明(同スタッフ)

ネットでラジオ

「Cinemaで…」放送中

にいがた映画塾コム
www.n-eigajyuku.com



新潟市のコミュニティFM局「ラジオチャット」で十二月五日から放送している、にいがた映画塾製作のラジオ番組「Cinemaで愛して」。もう聴きましたか?

毎回、映画塾の会員による個性的なトークや、一般映画の魅力について毎週日曜日午後五時から一時間、たっぷり放送しています。

「NG」もカラーで
 「NG」もバージョンアップ。「映画塾コム」では、PDFというファイル形式で、映画塾通信「NG」の配信も始めました。「Acrobat Reader」という無料のソフトをコム上で手に入れれば、パソコン上で「NG」を見て、印刷することができます。配布しているのは白黒の印刷物ですが、コムではカラーで配信しています。

ラジオと同じく、世界中どこにいてもにいがた映画塾の情報が入手できるわけです。パソコンをお持ちの方は、ぜひ映画塾コムに遊びに来て下さい。

ない結果となりました。放送エリアは新潟市と新潟市、三条市、加茂市、新発田市などです。エリア外でも映画塾コムで聴くことができるようになります。つまり、日本全国、世界中でも「Cinemaで愛して」を聴くことができるわけです。



DIARY

11月20、21日 第3回にいがたインディーズムービー・フェスティバル 初日は「第4期」の卒業作品8本を上映。2日目は一般応募作品27本の上映。東京、名古屋、札幌などの県外から応募した作家も訪れ、新潟の映画塾関係者らと交流した。高校生・田巻源太さんが撮った、俳優・大杉漣氏の主演作品は満員となった

(シネ・ウインド)

12月5日 ラジオ番組「Cinemaで愛して」スタート

12月10日 CineCineBangBangVol.11 佐藤広一特集

(RoomNo.2001)

12月26日 大掃除(事務所)、2000年度総会(万代市民会館、忘年会(赤たぬき))

1月15日 新年会(事務所)



会員・井上朗子さん「写真」監督の「うれしい、着ぐるみ」が、二月中旬、北海道夕張市と大坂市の二つの映画祭で相次ぎ上映されることになりました。

夕張、大坂で上映へ

井上さん作品「うれしい、着ぐるみ」

「うれしい、着ぐるみ」が、二月中旬、北海道夕張市と大坂市の二つの映画祭で相次ぎ上映されることになりました。どちらも多く応募作品から選ばれたもの。コンペ形式の映画祭で、映画塾会員の作品が上映されるのは初めてです。

「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」(二月十八日、二十一日)のオフシアター部門では、厳選された十本の中に入りまし

た。二十日午後五時から「ゆうばりホテルニューバロ」で上映されます。大阪の自主映画祭「ブレット映画祭」(二月十七日、二十日)では約百六十本の応募のうち三十五本を上映。井上さんの作品は会場の「PLANETS TATION」(同市中央区森ノ宮)で十九日午後八時過ぎに上映されます。

「うれしい、着ぐるみ」は一六ミリ、二十分、新潟市内の下町

「あなたの映画を映画館で」をキャッチフレーズに、一九九七年より毎年十一月、新潟・市民映画館シネ・ウインドで開催してきた「インディーズムービーフェスティバル」の映画見せてやれっ!!。九九年も十

第3回インディーズフェス 超満員に手応え

「あなたの映画を映画館で」をキャッチフレーズに、一九九七年より毎年十一月、新潟・市民映画館シネ・ウインドで開催してきた「インディーズムービーフェスティバル」の映画見せてやれっ!!。九九年も十

「あなたの映画を映画館で」をキャッチフレーズに、一九九七年より毎年十一月、新潟・市民映画館シネ・ウインドで開催してきた「インディーズムービーフェスティバル」の映画見せてやれっ!!。九九年も十

新年あけましておめでとございます。市民団体にいがた映画塾は発足して二年目の正月を迎えました。二〇世紀最後の本年は、二一世紀にいがた映画塾が新潟の映像活動の拠点となるべくをテーマとして様々な活動を試してみたいと思います。昨年、「好評をいただ」RADIO CHA独自の制作スタイルで「シネ・シ」で放送中(日曜日午

「シネマ」は会場(後五時)の「シネマ」は半年間の長丁場ですが、スタジオで収録するのではなく、映画塾の環境の充実も続けていきます。会員井上朗子さんが製作した「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

第五期映画塾講座の準備会も始まりました。会員の映画製作の環境の充実も続けていきます。会員井上朗子さんが製作した「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

年頭あいさつ

にいがた映画塾代表 矢部孝男

「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

「うれしい、着ぐるみ」は、名古屋にて上映され、この二月には夕張ファンタスティック映画祭、大阪ブレット映画祭、

定例会報告

(決定・重要事項のみ) 一九九九年度第二十五回(十一月十六日) 第二十七回(十二月二日) いずれも決定事項なし

「決定・重要事項のみ」 一九九九年度第二十五回(十一月十六日) 第二十七回(十二月二日) いずれも決定事項なし

「決定・重要事項のみ」 一九九九年度第二十五回(十一月十六日) 第二十七回(十二月二日) いずれも決定事項なし

新潟で活躍している映像作家の大先輩、古賀淳さんからこのほど、映画塾に撮影機材などの寄贈がありました。古賀さんは「県アマチュア映像連盟」のホカノメンバーとともに、昨年十一月の新潟インディーズ・フェスに来訪。若者たちが映る姿に感激し、協力を約束。長年愛用していた機材を提供して

大先輩が機材を寄贈

往年の名機種も

ただいたものです。筋金入りの映像マニアだけあり、どの機材も保存状態は完璧。子供のころにあこがれていた名機を前に、三〇、四〇代の会員は「格好いい」と一つひとつ手に取りながらはしゃいでいました。会員の皆さんはどんな活用して下さい。古賀さん、どうもありがとうとございませ

寄贈機材一覧

- 音響関係
 - マイク：ソニー製ECM-280(2)、ECM-170(1)、ECM-99(1) エルモ製FC-202(2)、ワイヤレスマイクセット(1)
 - ミキサー：ソニー製6CH・MX-14(1)
 - サウンドテレコ：エルモ製SR-1(1)
- 8ミリ関係
 - カメラ：キヤノン製DS-8=ダブルラン200フィートコダックフィルム使用=(一式) エルモ製612R(1)、110R(1)、350SL(1)、F20S-XL(1)
 - 三脚：木製大小2セット
 - スプライサー：アグファ製(1)
 - ワイヤードリモコン(1)
 - フィズチールネガ1コマ取り込み用アダプター(1)
 - GOKO製エディター(1)
 - ナングレア ガラス使用タイトラボード(1)
 - 800フィート対応映写機用リール(2)
- その他取扱説明書またはカタログ

編集後記

NGが映画塾コムで見られるようになりまし。友達にどんどんPRして下さい。第九号は四月中旬発行予定です。【編集スタッフ】星龍雄(題字)宮川直子

告知ばん

樋口美雪写真展「すきま」(一月三十日、二月五日・映画塾事務所) 昨年に引き続き、事務所を使った写真展を開きます。樋口さんは第四期卒業生。ぜひ見に来て下さい。劇団MAMEカラット公演「パイプ」(三月二十日午後二時開演・万代市民会館) 演出は平石一仁さん、舞台監督は大橋健一さん(どちらも三期卒業生)。